

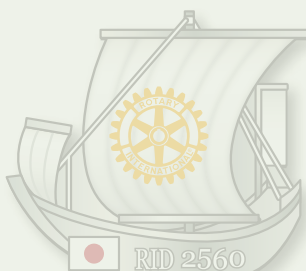
ガバナー月信



撮影：北村慎一

月信11月号

- ① ガバナーメッセージ
- ② 第1回米山奨学委員会セミナー報告
- ③ 第1分区 IM 報告
- ④ 第3分区 IM 報告
- ⑤ 地区大会記念親睦ゴルフ大会報告
- ⑥ ロータリー財団月間に寄せて
- ⑦ 会員数報告
- ⑧ 地区主要行事予定(11月・12月)
- ⑨ 新入会員紹介・訃報
- ⑩ コーディネーターニュース
- ⑪ ハイライトよねやま



国際ロータリー第2560地区
2022-23年度

高橋ガバナー事務所

〒950-8053
新潟市中央区川端町6-53 ホテルオークラ新潟1F
TEL：025-222-2561 FAX：025-222-2565



国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 ガバナー
高橋 秀樹 (新潟 RC)

11 月になり、いよいよ当地区は地区大会開催を迎えます。COVID-19 感染拡大防止のため、ハイブリッド形式での開催とせざるをえませんでした。皆様、それぞれの仕方で御参加下さいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今回はすこし目先を変えたガバナーメッセージをお届けしたいと思います。写真 A と B をご覧ください。私は古代文明を専門として大学で研究活動を行っていますが、この写真はアフリカ北部の沙漠地帯で調査活動を行うために出張したときのものです。およそ文明の存在が感じられないようなこんなところに、何の用事があったのかと思う方も多いでしょう。そこで写真 C をご覧ください。これは、沙漠の奥地にある洞窟の壁面を写したものです。多くの動物と人間が描かれているのがわかると思います。実は現在の砂漠地帯は、遙かな昔、緑豊かな草原地帯でした。多くの動物が生息しており、それを食糧とする人間もたくさん住んでいて、洞窟に壁画を残したのです。それが人類の歴史についての大変貴



A



B



C

重なる記録なのです。しかし1万年ほど前から進んできた乾燥化のため、草原は失われ、現在のような沙漠になってしまいました。人々は水を求めて僅かなオアシスや大きな川の傍に密集していかざるをえなくなったのでした。

実は、水資源の危機は遠い昔だけのことでなく、まさに今、深刻な問題です。ストックホルム国際水研究所が2012年に発表したレポートによると、2050年には、現在の食事の仕方では世界の人口を養うのに十分な水資源は無くなってしまうそうです。2050年には世界の人口は約90億に達していると予想され、世界の食糧生産は70%増産することが必要になります。そして、現在、発展途上国と言われる国々では、急速に食事の欧米化が進んでおり、これは動物性タンパク質で約20%のカロリーを得ることを意味します。つまり、肉の消費量が世界的に増大しているのです。1kgの食用牛肉には、牛が飲む水、牛が食べる穀物や草を育てるために使われる水、加工や流通の過程で使われる水など全て含めると、約16,000リットルの水が投下されていて、同じカロリーを摂取することのできる穀物の生産に必要な量の数倍になります。しかし、現在の技術で人類が使用できる地球上の水は限られており、地球が保有する水の総量である約14億立方キロメートルのうちの0.01%に過ぎません。ここから日常用水を始め、エネルギー用水、工業用水等々を差し引くと、食料生産用に使用できる水の量では、90億人が動物性タンパク質で20%のカロリーを得ることは、とうてい不可能なのです。90億人が生きていくことができる食料を地球上にある水を使って生産していくためには、人類全体がほぼベジタリアンになるしかなくなります。

しかし、現実には、肉には人間が生きる上で必要なアミノ酸が含まれており、食べないわけにはいきません。また、世界の国々の経済格差はあまりにも大きく、どんなに水不足になっても、経済大国の国民はおそらく今と変わらず肉を沢山食べ続け、貧困国は今まで以上の食糧難と水不足に苦しむことが予想されます。しかもこれらのことは、地球温暖化と海面上昇のため、一層深刻に加速していくことが見込まれるのです。

では、日本はどうでしょう。今のところは、不安なく肉を消費することができる国です。ですが、問題なのは日本の食糧自給率で、2018年のデータではカロリーベースで約38%に過ぎません。主要穀物と畜産物を始め多くの食料が輸入されていますが、それらに使われている水資源は、日本で穀物生産のために使用されている水より遙かに多いのです。世界的な水と食料の不足は、日本にとって、肉だけの問題ではなく、食料事情全体を根底から揺るがすものになりかねません。

さて、今月はロータリー財団月間です。財団の重点活動分野に「水と衛生」そして「環境の保護」がありますので、上記のようなお話をさせていただきました。ロータリー財団の国際的な活動内容という、何となくあまり関わりが無い遠い事柄のように感じられるかもしれませんが、あながちそうでもありません。グローバル化した現代では、遠い地域の問題が、直接的、間接的に大きな影響をもたらします。ロータリー財団の7つの重点分野について、改めて考える機会をもって頂けましたら幸いです。



2022-23 年度 第1回米山記念奨学委員長セミナー報告

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 米山記念奨学委員会 寄付増進委員長
熊倉 正志 (新潟万代 RC)

2022年10月8日(土) ホテルオークラ新潟で行われました2022-23年度第1回米山記念奨学委員長セミナーについてご報告致します。

当日は、コロナ対策を十分施した上での面前開催とさせていただき、2022-23年度の各クラブの会長、米山奨学委員長、ならびに地区の米山記念奨学委員を合わせ84名の方にご参加頂きました。冒頭で、高橋秀樹ガバナー、米山忠俊ガバナーエレクト、渡邊嘉子米山記念奨学委員長よりご挨拶を賜りセミナーに入りました。

まずはじめに、奨学生の体験発表として、ンゴファック・ソング・エミル・バルドさん(カメルーン、新潟食料農業大学、世話クラブ:村上岩船 RC)と、陳柯君(チン・カクン)さん(中国、新潟大学修士、世話クラブ:新潟北 RC)より、日本を留学先に選んだ理由、奨学生としての近況報告、ロータリアンへの感謝、そしてこれからの「夢」について発表いただきました。

続いて、今回の講演のために遠方よりお越しいただいた2020-23年度よねやま親善大使の李昱旻(リ・アキヒロ)さん(中国、慶応大学、世話クラブ:東京銀座 RC)より、『波紋のように広がる輪—感恩の輪、奉仕の輪、平和の輪』をテーマとして、奨学生時代の思い出、米山記念奨学会への心からの感謝の思いと、その恩に報いるための今後の活動に対する強い決意をお話いただきました。李大使の情熱に感銘を受けるとともに、李大使のような学友を育てることが、米山奨学事業の目的であり、事業発足の原点だということを再認識しました。まさに、『米山奨学会の成果は学友にあり!』ということです。



その後、鈴木公子寄付増進委員（柏崎中央 RC）より、『大切な学友会への入会について』、過去の実例をあげて、奨学期間を終了した奨学生を学友会入会に繋げることの重要性を熱く語っていただき、私からは、各クラブの会長・奨学委員長へ、寄付増進の力強い後押しをお願い致しました。最後に（公財）ロータリー米山記念奨学会理事である新保清久パストガバナーより、米山奨学事業への協力に対する感謝の意と、日本独自の国際理解・親善・平和を推進する米山奨学事業に対して、変わらぬご支援をお願いいただき、セミナーを締めさせていただきました。

今回のセミナーは、久しぶりの完全面前開催だったにも拘わらず、県内全 54 クラブ中 48 クラブからご参加いただき、その内 13 のクラブからは、会長・奨学委員長の 2 名様よりご参加いただきました。米山記念奨学委員会一同、心より感謝申し上げます。何といたっても米山奨学事業は、RC 会員の皆様からのご寄付で成り立っています。その寄付増進には、各クラブの会長、奨学委員長のご理解と、強力なご支援が必要です。是非とも、米山奨学事業の意義をご理解いただき、各クラブに持ち帰って、本事業の意義を広め、寄付増進に繋げていただきますよう、何卒宜しく願い申し上げます。





第1分区 IM の開催

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 第1分区ガバナー補佐
須貝 八栄 (中条 RC)

去る10月15日、第1分区のIMが中条ロータリークラブをホストクラブとし、胎内市のホテルを会場に開催されました。昨年、一昨年とオンラインでの開催となりましたが、今年こそは通常のIMをと思い準備を進めてきました。しかし、今年も新たなオミクロンの変異株の出現により開催が危ぶまれましたが、9月に入り新規感染者の減少傾向により開催する事といたしました。まだ収束とまではいかず、感染対策を取りながら参加人数を制限しての開催となりました。

今年度は「コロナ禍におけるクラブ活動」と題し、「クラブ運営」、「増強、退会防止」、そしてコロナ禍の中で入会して頂いた「新会員の感想」を、各クラブの代表の方に発表して頂きました。

各クラブともクラブの実情に合った運営、奉仕活動に努めて頂いていることをあらためて知る機会となりました。新会員の心情も聞かせて頂きました。

今回対面でのIMを開催し、オンラインでは体感出来ない生の声、雰囲気を感じることができ多くの会員から「良かったよ」という声を聞くことが出来ました。通常の対面でIMを開催出来て本当に良かったと思える1日となりました。ロータリアンに感謝です。





第3分区 インターシティ・ミーティング報告

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 第3分区ガバナー補佐
室賀 信宏 (白根 RC)

去る10月1日(土)、第3分区IMを新潟市南区「サルナート吉運堂」にて、高橋ガバナーのご出席と地区内61名の参加者のご出席を頂き、白根RC主催で開催いたしました。未だコロナ感染が収束とはいいがたい中での開催ということもあり、会場内での感染対策および、やむを得ず懇親会を欠席される方向けにお食事を持ち帰れるようにしたり、工夫を凝らしましての開催とさせていただきます。

式典では高橋ガバナーより、ロータリーでの奉仕活動の在り方について、昔のロータリー活動の例を参考に、ご講演をいただきました。また、ゲストとして東邦産業株式会社 代表取締役 五十嵐 悠介様より、基調講演 演題「SDGsについて」をいただきました。最近ではSDGsという、言葉だけはよく耳にしますが、内容までよく理解している人は少なく、ご講演により内容の理解が深まり、今後の事業活動において大変参考になることが多く感じられ、意義深い基調講演となりました。懇親会アトラクションではメンバー小山直樹君と白根 RAC メンバー熊谷真梨子君による三味線&ピアノ演奏を披露し、地元バンドシルクサウンズの演奏などで大いに盛り上がりました。

皆様のご協力により3年ぶりに地区内全メンバーを対象に行われたIMは、今年度より五泉クラブが消滅したショックを乗り越えて、成功裏に執り行うことができました。ありがとうございます。

さて、去る10月10日スポーツの日に、第3分区ゴルフ大会を湯田上カントリークラブで白根RC主催にて執り行いました。当日はあいにくの雨となり、大変なコンディションとなりましたが、22名のご参加を頂き和気あいあいの中、無事最後までラウンドすることができました。分区ゴルフ大会は来年6月にも2回目を計画しております。





地区大会記念ゴルフ大会の 開催報告

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 地区大会記念ゴルフ大会 実行委員長
若槻 良宏 (新潟 RC)

2022年9月27日及び28日の両日、新潟県新発田市所在の紫雲ゴルフ倶楽部におきまして、恒例の地区大会記念ゴルフ大会を、個人戦380名、団体戦37クラブの参加を得て開催いたしました。

今回は、コロナ禍ということもあり、チャリティーホールのティーフランドに屋外特設テントを設け、阿賀野市のスワンレイクビール様のビールサーバーを用意し、スペシャルアシスタントを通して皆様に地ビール（生ビール）提供させていただきました。チャリティーホールでは、紫雲ゴルフ倶楽部様から景品を無償で提供していただきました。ワンオン成功者が多数になることを想定して、成功者向けの景品を多く用意してもらいましたが、ビールを飲みすぎた影響なのか、多くのギャラリーがいた影響なのか、そもそもの腕前の問題なのかは判然としませんが、予想に反してワンオン失敗者が続出し、残念賞が早々に品切れになるというハプニングがありました(笑)。なお、皆様から頂戴したチャリティーについては、高橋ガバナーとご相談のうえ、ロータリー財団に関する支出に充てさせていただきます。ご予定でございます。

27日は一時雨が降りましたが、概ね心地よいコンディションのなか、全員無事にホールアウトすることができました。改めまして多数の皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。皆様方のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

ゴルフ大会の成績発表・表彰については、11月13日の地区大会にて行う予定です。なお、今回は、個人戦・団体戦のほか、シニア部門、レディース部門についても特別に順位賞の商品を用意しておりますので、ご期待ください。





ロータリー財団月間に寄せて

国際ロータリー第 2560 地区

2022-23 年度 ロータリー財団委員会 委員長

佐藤 真 (村上岩船 RC)

地区ロータリアンの皆さまには、日頃より地区ロータリー財団委員会活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、11月にはロータリー財団月間です。「世界でよいことをしよう」という標語を掲げロータリー財団は世界で活動しています。その活動を広く皆さまに知っていただくことと委員会では、地区大会に於いてポリオ根絶のアピールブースの設置や、卓話・押し掛けメーキャップなど計画をしています。ぜひ、皆さまのご協力をお願い申し上げます。

奉仕プロジェクトによる地区補助金 (DG) 使用状況とグローバル補助金

高橋年度の地区補助金は、2019-20年度 (大谷年度) の寄付実績により、\$98,600 使用可能です。本年度は 35 クラブから 36 件の奉仕プロジェクトの申請があり、総額 \$77,856 にのぼります。COVID-19 や社会情勢の変化、災害などによるご苦勞もあると思いますが、ぜひ有意義にご活用いただきますようお願い申し上げます。

また、グローバル補助金の人道的プロジェクトに使用可能な地区予算は \$81,000 です。現在 2 件のプロジェクト (\$25,000) を申請中です。残り利用可能な補助金 (\$56,000) が皆さんのアクションをお待ちしております。

ポリオ根絶に向けた取り組み

11月12・13日の地区大会に於いて、委員会はポリオ根絶のアピールブースを設置いたします。ぜひ、会員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

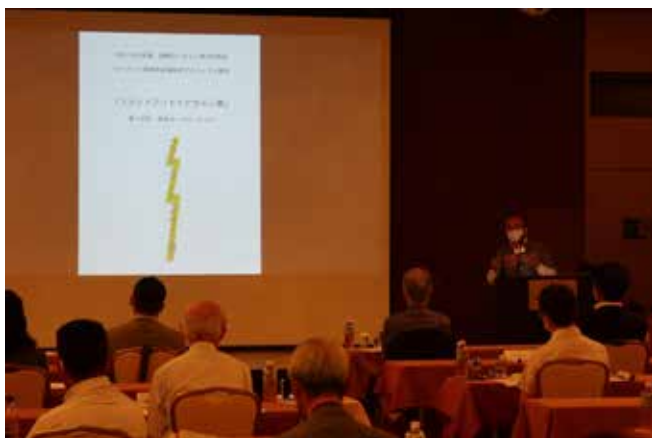
ロータリー財団月間卓話&押し掛けメーキャップ

地区ロータリー財団委員会の呼びかけに応じていただき、17クラブの皆さまから卓話のご依頼を賜り誠にありがとうございます。委員会では皆さまのニーズにお答えできるよう対応させて貰います。また、卓話のご依頼をいただいていないクラブにも、委員会メンバーがメーキャップ訪問をする予定でございます。その際には3分程度お時間を頂戴しロータリー財団の広報活動にご協力願います。

RID2560 財団・米山感謝の集い午餐会 (11月26日土曜日)

地区ロータリー財団委員会と地区米山記念奨学委員会では、それぞれの寄付・基金に格別のご理解とご協力をいただいている会員の皆さまにご参集賜り、感謝をお伝えすると共に、皆さまが一層の親睦を深めていただけるよう二委員会共催による感謝の集いを計画いたしました。お忙しいところとは存じますが、お声掛けをさせていただいた皆さまは、ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。

【2022年11月26日(土曜日) 12:00～14:45 ANAクラウンプラザホテル新潟】



2022年8月27日開催 第1回財団セミナーの様子

第 2560 地区 2022-23 年度 9 月末 会員数報告

R	C	例 会 数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数				
				2022年 7月1日	9月末 会員数	うち女性 増減		
第1分区 (9クラブ)				-	372	380	35	8
		3	31.5%	88	89	0	1	
		4	20.5%	38	39	9	1	
		3	26.5%	33	34	1	1	
		4	91.5%	44	47	3	3	
		4	21.6%	38	37	3	-1	
		3	17.4%	23	23	2	0	
		3	4.3%	45	47	4	2	
		4	52.8%	36	36	7	0	
		3	25.0%	27	28	6	1	
第2分区 (9クラブ)				-	426	446	30	20
		3	24.4%	79	90	3	11	
		4	18.8%	63	64	8	1	
		4	33.0%	108	112	5	4	
		2	80.0%	5	5	0	0	
		4	47.5%	38	40	2	2	
		2	12.8%	38	39	4	1	
		3	30.6%	35	36	1	1	
		3	44.4%	18	18	0	0	
		4	52.4%	42	42	7	0	
第3分区 (5クラブ)				-	89	93	5	4
		3	11.1%	18	18	1	0	
		4	50.0%	10	12	0	2	
		4	29.0%	30	31	1	1	
		3	38.5%	26	26	3	0	
		3	0.0%	5	6	0	1	
第4分区 (11クラブ)				-	350	364	25	14
		3	10.5%	55	57	0	2	
		4	8.6%	33	35	2	2	
		5	6.3%	32	32	4	0	
		3	17.9%	35	39	2	4	
		4	79.3%	29	29	4	0	
		5	5.0%	21	20	1	-1	
		4	3.6%	28	28	3	0	
		3	9.1%	54	55	2	1	
		4	3.8%	25	26	3	1	
		4	14.3%	6	6	1	0	
		4	5.4%	32	37	3	5	

R	C	例 会 数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数				
				2022年 7月1日	9月末 会員数	うち女性 増減		
第5分区 (7クラブ)				-	288	293	26	5
		3	73.9%	44	46	3	2	
		3	2.4%	40	41	0	1	
		3	26.9%	52	52	4	0	
		3	18.2%	43	44	3	1	
		3	13.6%	21	22	1	1	
		4	20.4%	49	49	3	0	
		3	23.1%	39	39	12	0	
第6分区 (6クラブ)				-	116	118	12	2
		3	29.0%	31	32	4	1	
		5	10.7%	28	28	4	0	
		4	19.2%	25	26	3	1	
		3	0.0%	14	14	0	0	
		3	25.0%	12	12	1	0	
		3	16.7%	6	6	0	0	
第7分区 (7クラブ)				-	313	316	22	3
		3	33.3%	70	72	4	2	
		4	35.6%	72	73	6	1	
		3	11.4%	35	35	1	0	
		5	68.3%	41	41	3	0	
		3	68.6%	35	35	3	0	
		4	55.6%	27	27	0	0	
		5	93.9%	33	33	5	0	

クラブ数	54 クラブ
7月1日会員数	1,954 人
9月末会員数	2,010 人
女性会員数	155 人
純増減会員数	56 人
My Rotaryアカウント登録率	29.1 %

※8 月末からの訂正
 8 月末日会員数
 新潟 RC 【88 名 (うち女性 2 名) ⇒ 88 名 (うち女性 3 名)】
 第 2560 地区 2,005 人 (女性会員 154 人)

地区主要行事予定

2022年10月21日現在

年	月	日	行 事	会 場
ロータリー財団月間				
2022年 (R4) 高橋年度	11月	5	(土) 米山記念奨学生面接官オリエンテーション	ホテルオークラ新潟
		5	(土) 米山記念奨学生学友会総会	ホテルオークラ新潟
		12	(土) 高橋年度 地区大会1日目 / RI会長代理歓迎晩餐会	ホテルイタリア軒
		13	(日) 高橋年度 地区大会2日目	ANAクラウンプラザホテル新潟
		19	(土) ロータリー財団地域セミナー	神戸ポートピアホテル
		20	(日) 第2回ガバナー会議	神戸ポートピアホテル
		20	(日) RI会長歓迎晩餐会	神戸ポートピアホテル
		20	(日) メジャードナー午餐会	神戸ポートピアホテル
		20	(日) 第2回ガバナーエレクト研修セミナー (GETS)、 ガバナーノミニー研修セミナー (GNTS)	神戸ポートピアホテル
		21~22	(月~火) 第51回ロータリー研究会	神戸ポートピアホテル
26	(土) R財団・米山合同メジャードナー感謝の集い 長期派遣学生選考試験 ローターアクトアジア第1ゾーン会議	ANAクラウンプラザホテル新潟 ホテルオークラ新潟		
疾病予防と治療月間				
12月	3	(土) ガバナーエレクト渡米壮行会・地区諮問委員会・地区運営会議	ANAクラウンプラザホテル新潟	
	4	(日) 全国青少年交換・危機管理委員長合同会議	東京 (対面+ZOOM)	
	17	(土) ROTEX会議・第1回派遣学生オリエンテーション・クリスマスパーティー IA献血キャンペーン	ホテルオークラ新潟 新潟市・上越市	

【新入会員】

(敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
新潟中央	蓮沼 裕幸	2022.08.09	蓮沼金属(株)	専務取締役	建設業
白根	小林 諒	2022.09.01	株式会社 小林塗装	相談役	建築塗装業
新潟南	渡邊 日奈子	2022.09.07	税理士法人 新潟合同事務所 駅南事務所	社員税理士	税理士
三条東	田崎 賢治	2022.09.08	嵐南エステート(株)	代表取締役	不動産取引
巻	橋本 公一	2022.10.01	(株)橋本貿易	代表取締役	貿易業
長岡西	川上 一之	2022.10.06	株式会社 テック柏	代表取締役	舗装工事業
柏崎	菅原 宏文	2022.10.12	柏崎刈羽電子力発電所 IHI定検工事事務所	所長	発電プラント 保守工事
柏崎	飯田 雄介	2022.10.12	山田工業(株)	代表取締役社長	メンテナンス工事業
燕	本多 貴之	2022.10.13	ミノル製作所 株式会社	代表取締役社長	へら絞り加工業

※先月号掲載の新入会員のお名前に誤りがありました。大変失礼いたしました。 【誤】重野 次夫 【正】重野 富次夫 (新井妙高RC)



第3地域 ロータリーコーディネーター補佐 安増 惇夫 (宗像)

私の所属する 2700 地区は、21 年に「地区戦略計画委員会」にて、「2700 地区 RAC 活性化対策」に取り組み、地区 RA 委員会、地区 RAC、等々の関係する委員会等で検討し、下記のような「2700 地区 RAC 諸規定」を定め、7 月 1 日に遡って発効しました。少しずつですがその好結果が見えだしたので、「皆様の参考にでもなれば」と考え、この欄にて紹介させていただきます。(掲載文字数の制限で、一部簡略・省略しています)

1. 地区内の RAC はそれぞれ一つの独立クラブと認識し、地区との包括的連携団体とします。そのために、青少年奉仕部門から分離し、地区 RA 委員会と相互に連絡を取りながら RAC の維持と活性化を図ることになります。
2. 地区内の RAC は、「自立した RAC」を目標として活動し、【常に会員増数に努力し、「提唱型 RAC」「独立型 RAC」は勿論、「地区支援型 RAC」も、「RAC から発展した衛星クラブ又はロータリークラブ】への移行を目指すか、RA 卒業後に アドバイザーの勧めるロータリークラブ会員又は「ロータリーフェローズ 2700」の会員になることを目指してください。
3. 2022 年度から 2700 地区 RAC として、地区組織からは別組織となりますが、双方は包括的連携協力を維持するために、指定する(省略)地区委員会に地区委員を所属させるとともに、地区主催の「地区研修・協議会」には、定められた方法で出席してください。
(RAC 地区委員は、2700 地区委員と同等の権利と義務を所持します)
4. RAC の会長は 地区主催の「PETS」に定められた方法で出席してください。
5. 2700 地区内 RAC は、下記の 3 つの形に分類し、支援クラブ・アドバイザー制度を設けます。(アドバイザーの役目は省略)
 - ① 独立型(企業型)RAC 柳川 2020RAC のような提唱クラブの無い型。
「RAC」と「支援クラブ」・「アドバイザー」の連携により共存共栄を図る理想的な RAC。
 - ② クラブ提唱型でクラブとの関係も良好で活動も活発な型。「RAC」と「支援クラブ」・「アドバイザー」・「クラブローターアクト委員会」の連携により、「衛星クラブ」として、独立運営が出来るように更に支援を進める。(提唱型クラブの RA が 4 人以下となり、その状態が 3 年続いた場合は、自動的に地区支援型 RA として、地区 RA 委員会はその手続きを行う)
 - ③ 地区支援型でクラブが提唱できないような少人数又は 1 人や 2 人の RA を育てるために「RA」と「推薦クラブ」・「アドバイザー」に「2700 地区 RA 委員会が支援する-地区支援型」の RAC とします。1 人からでも RA になることが出来ます。(地区内 1 クラブから推薦の RA が 5 人以上になる場合、クラブ内に「RA 委員会」を設置し、クラブ理事会の決定によって提唱クラブとなる手続きをして下さい。
6. 地区大会等に関する件
RA は地区主催の地区大会に出席する事は出来るが、参加人数、参加登録費等々はその都度、当事者間当事者の協議で決定する(簡略)。
7. 金銭に関わる件は詳細に規定していますが(省略)します。



1. 米山月間の由来

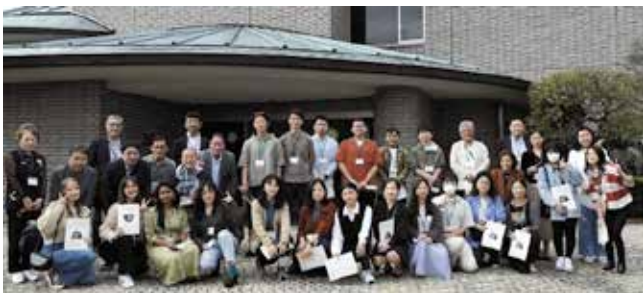
今年も米山月間がやってまいりました。国際ロータリー理事会が指定したロータリーの特別月間とは別に、日本独自の月間テーマとして、毎年10月は米山月間となっています。今回は改めて、その由来についてご紹介します。

1975年8月、米山梅吉翁が逝去した4月28日までの1週間を「米山週間」とすることが決定しました。ある地区ですで行われていた強化活動を全国へ広げ、米山奨学事業を促進することが目的でした。しかし1980年度になると、米山週間は4月から10月1日～7日へと変更されました。その理由はいくつかあります。一つには「ロータリー雑誌週間」が1978年度から4月となり、重なってしまったこと。また、4月では各

クラブへ送付される事業報告書などの資料数字が約1年前のものとなることや、採用されたばかりの奨学生に卓話を依頼することに無理がある、交通機関のストライキが多い、など現実的な支障があったためです。そして何よりも、東京RCによる米山基金から日本全地区クラブの共同事業とする決議や合意が行われた地区大会が、いずれも10月だったこと、これが大きな理由とされています。1983年からは週間制度が「月間」となり、10月が米山月間として定着し、今に至っています。当会の配布資料などを活用し、米山の理解促進へのご協力をお願いいたします。



2. 米山のルーツを訪ねる



9月24日から25日にかけて、第2790地区（千葉県）米山学友会主催で、「米山梅吉記念館探訪旅行」と題し、23人の学友・奨学生を含む27人が記念館を訪問しました。ほとんどの奨学生・学友にとって初めての記念館訪問で、梅吉翁の生涯、奉仕の精神に触れ、奨学生からは「米山奨学生になることができて光栄」、「平和な社会を築くために、米山梅吉のような人になりたい」といった声が多くあったとのこと。

また、2日目には東京へ戻り、サントリーホールにて「交響詩・古事記『一粒萬倍 A S E E D』五穀豊穡の物語」を観覧。「万物は一つに

つながっている」というテーマである物語を通じて、歴史の体験をしました。

同学友会副会長のグエン ビッグ フォンさん（2020-21/我孫子RC）は、「コロナ禍の影響でずっと活動が少なく、米山梅吉記念館も行ったことがなかったので、奨学生の皆さんと同じく新鮮な気持ちで参加しました。ロータリアンの方々と交流ができ、日本文化を勉強でき、新たな仲間もたくさんできました。米山奨学事業への理解、異文化理解について、より深まったと感じています。お世話になった皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいです」と、述べました。



ぶどう狩りを楽しむグエンさん(中央)と奨学生

3. 映像で体感する米山奨学事業

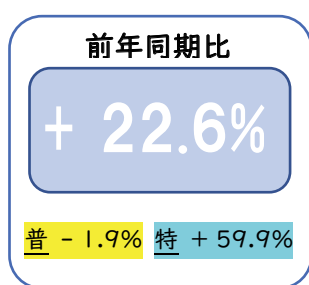
米山奨学会では、公式の YouTube チャンネルにて、米山に関する動画を順次更新しています。

今年、新たに3人の親善大使の自己紹介動画、そして2760地区の奨学生選考過程に密着した、「よねやまに魅せられてーロータリアンの想いー」を公開しました。引き続き、米山奨学事業について、文字や写真のみでなく映像でも皆さまにお届けできるように努めてまいります。例会やセミナーなどで、YouTube を活用し



て、気軽に上映していただくことが可能です。また、ご希望があれば映像をDVDとしてお送りさせていただきます。希望される方は当会の広報までご連絡ください。

4. 寄付金速報 一年に1度の米山月間



9月までの寄付金は、前年同期と比べて22.6%増（普通寄付金:1.9%減、特別寄付金:59.9%増）、約7,760万円の増加となりました。今月の特別

寄付金の大幅増は、267号で紹介した米山学友、周順圭さん（1962-63:東京西RC、1963-65&

66-68:東京世田谷RC）の約6,890万円のご寄付が当会に入金されたためです。皆さまの多額のご寄付とお気持ちに、改めて厚く御礼申し上げます。

また、東京城北RCの元会員、故飯島英夫氏のご遺志を継いで、令夫人の喜与子氏から昨年度いただいた1,000万円のご寄付に対し、9月30日、同クラブ例会にて、相澤光春副理事長から喜代子氏へ感謝状と特製盾を贈呈しました。

5. 夏のワークショップ in 浦項

8月27日、韓国米山学友会主催「夏のワークショップ in 浦項」が慶尚南道浦項市の浦項工科大学にて開催され、総勢16人が参加しました。

今回のワークショップは1泊2日の日程で、一般に立ち入ることができない大学内の放射光加速器等の研究所を訪問し、施設内の見学をしました。同学友会のワークショップは、メンバ



ワークショップの合間にカフェで一息

一同士の親睦と新たな知識共有の場として、7年前から毎年2回ほど開催しています。また、同学友会では、2016年から在韓日本人留学生への奨学金支援も毎年行っています。

広報担当の金珉庭さん（2005-06/吹田西RC）は、「韓国で活躍している米山学友が研究、経済、情報などを共有できる学習の機会を提供するとともに、学友間の更なるコミュニケーションの場を設け、来韓した日本人留学生との密な交流を目指しています。今回は日本人留学生の参加は1人でしたが、今後は多くの日本人留学生が参加し、情報共有や相談ができ、勉学はもちろん、韓国での生活の活力になるような場にしていきたいです。私たち学友会は、さらに交流の輪を広げ、絆を深めることを第一に、さまざまな活動をしてまいります」と述べました。なお、韓国学友会は11月26日に総会を開催予定です。